Themis テミス

岡義博法律事務所報 第 7号

高松市丸の内10番地１大和生命ビル４階
TEL　(0878) 21－１３００
FAX　(0878) 21－１８３３

熱しやすく

所　長　弁護士　岡　義　博

熱しやすく冷めやすいとは、飽きっぽい性格を表わす言葉で、あまり良い意味には使われません。また、付和雷同という言葉があります。他人の言葉に乗って軽々しく行動をすることをいい、これも良い意味には使われません。

今年起きた、大きな社会現象、事件というと、前半の米不足、中盤の水不足があります。国産米の不足による大騒動が新聞・テレビ等で大々的に報道されたのは、皆さん御承知の通りです。随分以前の出来事のように思われますが、今年の前半には、まだ国産米が不足し、コシヒカリが２倍の値段をつけていたものです。米の消費量は年々減少してきており、米が品薄になっても、パンもあれば麺類もあり、外国産米もありで、格別不自由はないと思われましたが、国産米に人気が集中しました。新米が出ることがわかっている時期になっても、なお国産米人気が報道されたため人々は国産米を買い求め、そのため値上がりは続いていきました。付和雷同といわれるゆえんですが、自分で自分の首をしめているようなものです。そして、今年の米が豊作とわかると途端に、国産米の買い漁りがなくなりました。熱しやすく冷めやすいといわれるゆえんでしょう。

水不足の時も同様です。高松は昭和47年の高松砂漠以来の水不足で、高松の水飢餓や高知の早明浦ダムは一躍全国区の知名度となりました。この水不足の折も、新聞・テレビが全国的な報道をしたため、水不足グッズは飛ぶように売れました。ポリタンクなどがないと断水に備えられないとの危機感から、皆が買い求めたのです。今では、高松のどの御家庭にもポリタンクやポリバケツが売るほどあるはずです。どうも、我々は過剰に反応しすぎるようです。

水不足は、まだ現時点では解決しておらず、人々の頭の中には、長期的な水対策をどうするかという意識があります。即ち、冷めていない状態です。重要な事柄については、なるべく冷めないで、気長に対策を考えてゆくことが肝腎ということでしょう。

それにしても、水の大切さを痛感させられた夏でした。

法の女神・テミス

この像は、ギリシャ神話の「法の女神」　テ　ミ　ス（Themis …ギリシャ語で、「掟」「習慣」「法」「正義」を意味します）を形どったものです。

右手に掲げるはかりは、公平を象徴するとともに、悪の重さをはかり、剣は力による貫徹を象徴し、目隠しは無私をあらわすものといわれています。

身近な法律シリーズ(7)　交通事故

交通事故は近年になってまた増加傾向にあります。そこで、交通事故を起こした場合、加害者についてどんな責任が生じるかから考えてゆきます。

まず、行政上の責任が生じます。事故や違反の態様により、違反点数が決められており、一定点数になると免許停止あるいは免許取消という形で責任をとらされます。もちろん、反則金も科せられます。これは身に覚えのある人がかなりいるでしょう。

また、交通事故を起こすと刑事上の責任を問われることもあります。これも、違反や事故の程度によりますが、刑罰としては罰金刑のほか、懲役刑もあります。裁判の形態としては軽微な事故の場合略式手続といって簡単な手続ですませる裁判もありますが、重大な事故の場合には正式裁判になります。１ケ月以上の怪我の場合には正式裁判になることが多いようです。その場合には加害者は裁判に行かなければなりません。そして交通事故も犯罪の一種ですから、裁判の結果最悪の場合刑務所へ入ることもありうるのです。

次に民事上の責任も生じます。交通事故は不法行為ですので損害賠償責任があるのです。しかし、ここに保険という制度があります。保険に入っていれば、その責任を保険会社が代わってはたしてくれることになります。但し、運転する人で自賠責保険に入っていない人はいないでしょうが、上乗せ保険に入っていない人はかなりあります。このような場合自賠責保険でまかなえない損害については個人が支払わなければならないのです。それでは、加害者の負担も大変ですが、被害者側にとっても、十分な賠償が行なわれないこともあるので、加害者・被害者双方にとって悲劇となります。上乗せ保険には必ず入っておきたいものです。

次に、被害者の側から考えてみます。被害者として、加害者を重く処罰して欲しいとか行政処分を重くして欲しいと考えても、直接実行に移す手だてはありません。これは、それぞれ検察庁や裁判所、公安委員会の権限によるものだからです。

被害者（遺族も含む）としては、民事上の責任の追及は直接の当事者ですから可能です。そこで、責任追及の方法ですが、損害賠償の話は普通保険会社の担当者（加害者の示談代行者）が話に来ます。その話し合いの結果、保険会社担当者との間で、示談になる例が多いようですが、保険会社の提示する金額に不満があれば、被害者としては調停や裁判をすることもできます。一般的には、保険会社の提示する金額よりも、調停・裁判の結果出てくる金額の方が高いようなので、これらの手続をとることも被害者としては有効な手段です。

高松ウォッチング

事務局　E・O

新婚まもない頃、私が１人で夫の帰りを待っていた昼下がりの出来事です。

「刑務所の○○やけど」という突然の電話。私はパニックに陥りました。自宅に変な電話がかかる事もあるらしいと以前聞いた事を思い出した。もう恐ろしく「留守ですが…」と言うのがやっと。すると「ほなら又かけます」という返事（エーッ、今度は、刑務所の夕方の休み時間！）。知らない土地高松に来たばかりで知人も全くなくオロオロするばかり。

やっと帰ってきた主人をつかまえて必死でこの電話のことを訴えました。

ところがなんとそれは刑務所に勤務している主人の友人の○○さんだったんです。

主人に言われました。「あほかいなー。刑務所に入っとる人間が昼休みに電話かけられるわけが無いやろうがー」

ごもっとも、ごもっとも！

外部の方からの投稿です

事務所不思議発見（遭遇）

事務局　T・I

皆さんは「未知との遭遇」という映画をご覧になったことはありますか？ラストでＵＦＯと人間が音と光によってコミュニケーションをとるシーンは、かなり有名な場面なので、映画を見ていなくてもどこかで目にしたことがある方も多いと思います。では、事務所不思議発見に何故「未知との遭遇」なのか。

それは、裁判所の正面にある２機のエレベーターです。この春新しくなったエレベーターは、銀メタの機内に白色の光が筋状に伸びていて、映画のラストを彷彿とさせる程明るい乗り物に変身したのです。特に、向かって左側のエレベーターには扉が開いた正面に鏡が張られているのです。「未知との遭遇」を体験できること請合いです。経験者は語る。

競　馬　考

この欄は趣味の欄で、これまではもっぱら旅行について書いてきました。今回は趣向を変えて競馬について書きましょう。

競馬とのつき合いは20年以上前にさかのぼるが、最近ではとんと縁がなく、ついぞ馬券を買ったこともない。有力馬の名前も十分覚えられない状態が続いている中、此度高松にも場外馬券売場ができたので１度行ってみようかと思っている今日この頃である。

さて、私が最初に買った馬券は、忘れもしない昭和44年のダービー。後から振り返れば、この時の出走馬は大した名馬がいなかったのであるが、当時は訳がわからないので、ダービーに出るほどだから、全部名馬だろうと思い込んでいた。そんな中で私が軸として目をつけたのはミノル（今ではこの馬の名前を知っている人はほとんどいないでしょう）。ミノルはかなり人気になっていたが、１番人気はタカツバキ（この名前も知らんでしょう）。そのほか、ギャロップ、ハクエイホウというところが人気であった。

私は、手固い戦績のミノルから流すことにした。ミノルは１枠である（20年以上前のことをよく覚えているなあ～）。出走馬が多いので外枠はいらないと考え、内枠ねらいで１枠から５枠まで流すことにした（当然のことだが馬連なぞはない時代である）。馬券も現在のようにコンピューター式ではなく、薄手の紙にパンチで穴をあけているモギリ式のやつである。さて、意気揚々馬券を買い込みテレビ観戦とあいなった。

発走。レース内容は忘れてしまったが、スタート直前に１番人気のタカツバキが落馬。しかし、わがミノルは関係ない。頑張れミノル。ミノルは期待にたがわず手固く２着に。ところが、あろうことか、１着は６枠のダイシンボルガード。なんだこの馬は。１－１、１－２、１－３、１－４、１－５と買っているのに、結果は１－６。競馬というものは、こういうものである。私は、この後、度々同じ思いをさせられたものである。勝ったダイシンボルガードは、その後ダイヤモンドステークスを勝ったくらいの成績しか残せず消えていった。それでも、ダービー馬として歴史には名を残せたので幸せというべきか。

それにしても、馬の実力というものは、そのレースの時点ではわからないものである。レースの勝敗は基本的には馬の実力で決まるはずであるが、何度も対戦している馬同士の間では格付けがすんでいるが、４歳馬では実力が未知であるし、古馬でも対戦していない馬同士では格付けは不明である。逆にいえば、そこに競馬の推理のおもしろさがある。かのシンボリルドルフが弥生賞に出走した時点ではビゼンニシキも無敗であった。この対決は甲乙つけ難いと思っていたが、結果は、ルドルフの勝ち。ニシキはその後スプリングＳに勝ち、ふたたびルドルフと皐月賞で相まみえる。この時点でも、２頭の格付けはまだ、すんでいないと考えていた人は多かったはずである。しかし、結果はルドルフの圧勝。そして、３度目の対決のダービーでもニシキはルドルフに完敗。格付けは明らかであった。それもこれも終ってみればそうだったのかということである。初対決の時点ではどの馬が強いかわからない。だから競馬は面白い。また競馬を始めるか。　（Ｙ・Ｏ）

＊編集後記＊

テミスを読んだ友人から「あなたちゃんと仕事出来てるの？　人ごとながら心配になってくるわ」と言われました。

相変わらず、ドジぶりを発揮しておりますが、皆様どうぞ御安心下さい。我々事務員は文面からはおよそ想像もつかないくらい、日々まじめにデスクに向かっているのです。

（Ｅ.Ｏ）